

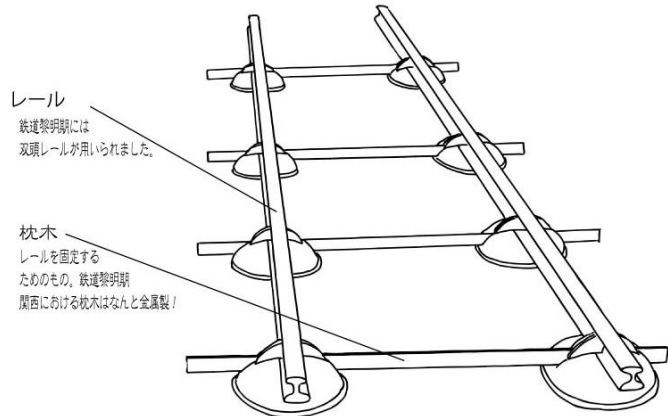
そうとう 双頭レール

兵庫県立歴史博物館蔵

さんぎょういさんがつかいすいせんさんぎょういさん
産業遺産学会推薦産業遺産

双頭レールは鉄道黎明期てつどうれいめいきのみに使用された特殊なレールです。双頭レールは上じょう下げ両端とも丸く、レールが擦り減った場合には上下を反転はんてんさせて使用することが可能でした。

※ 通常の鉄道レールは上側しゃりん（車輪）が丸く、下側まくらぎ（枕木）に接する側が平らになっている。



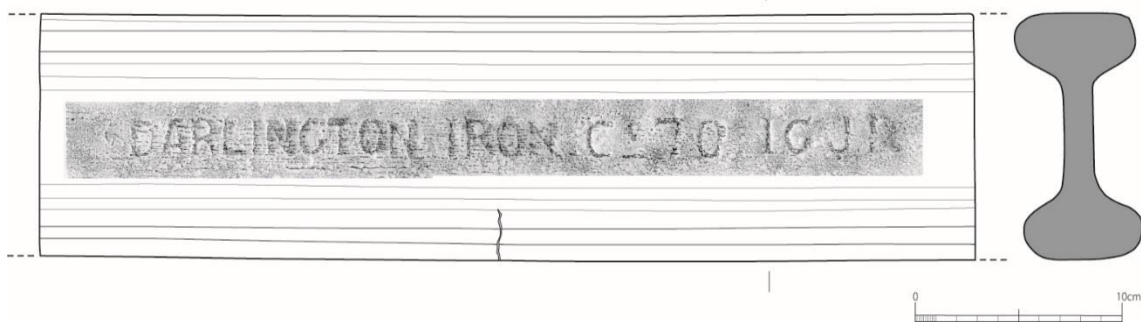
てつどうれいめいき
鉄道黎明期の線路（イメージ）

双頭レールの使用は、日本で最初に開業した新橋—横浜間〔明治5年（1872）開業〕と、大阪—神戸間〔明治7年（1874）開業〕に限られ、明治10年（1877）開業の京都—大阪間ではもはや双頭レールは用いられず、通常の平底レールが用いられました。

双頭レールはわが国の鉄道黎明期てつどうれいめいきのみに用いられた、記念碑ともいえるレールなのです。



【図1】 鉄道開業当時の新橋駅の様子
歌川広重（三代）「東京汐留鉄道館蒸気車待合之図」
明治6年（1873）
兵庫県立歴史博物館蔵（入江コレクション）



【図2】 双頭レール側面に記された文字

レールの側面に記された“DARLINGTON IRON CO 70 IGJR”の文字【図2】から、明治3年（1870）に英国ダーリントン社で製造されたレールであること、しかも現代のレールのような鋼鉄ではなく、19世紀のヨーロッパでさかんに製造された炭素濃度の低い錬鉄製であることがわかります。